

学 校 評 議 員 会 議 録

開催日時	令和3年11月24日(水) 18時00分～19時00分	
会 場	北海道南幌高等学校 会議室	
出席者数	学校評議員 5名	学校側 6名
出席者名	青 木 義 春 川 上 裕 一 田 中 ミカエ 西 川 志津子 林 郁 雄	矢 橋 佳 之(校 長) 中 條 尚 志(教 頭) 宮 本 理 絵(事務長) 上 津 隆 路(教務部長) 大 澤 信 哉(生徒指導部長) 川 上 美知代(進路指導部長)
校長が意見を求めた事項		学 校 評 議 員 の 意 見 等
学校概況及び課題解決に向けた取組について		1 学校概況、学校運営について (1) イレギュラーな年の継続により、大人でもメンタル面で疲弊する中、子ども達へのフォローがテーマとなってくると思うが、小規模校ならではの特性を生かし、細部まで目が行き届いていることを感じる。リアルに会って話すことの大切さ等、コロナ禍で気付かされたことも多い。苦慮も多いと思うが引き続き生徒達への細かな配慮を継続願いたい。通り一遍な評議員会が多い中、本校は単に評価に終わることなく意見交換も活発であり、評価に値する。 2 生徒指導上の課題について (1) 制服、頭髮等、身だしなみの乱れには、心因性や疾病に伴う後遺障害が背景に隠れているケースもある。コミュニケーションが良好であれば対策を講じることも可能だが、自ら伝えられずに誤解を招くことも少なくない。卒業に向け、社会性やコミュニケーション能力、他者へ伝える力をどう育むかも課題である。 3 卒業後を見据えた進路指導について (1) 就職後は大人の世界でもいじめは起こり得、退職するケースもある。社会に出ると理不尽な経験も含め様々な壁にぶつかる。社会の厳しさも伝えつつ、荒波へ漕ぎ出すための順応力、対応力を在学中に身につけてほしい。 (2) はじめは誰しもが、どうしたらよいか戸惑うもの。想像と異なることも多く、インターンシップ等、体験の機会を多く取り入れ生かしてほしい。
上記のとおり会議を開催した。		令和3年11月25日 北海道南幌高等学校長 矢 橋 佳 之

※ 別の書式により意見聴取の内容を整理している場合は、それを添付し保管すること。

※ 配付資料等を添付し保管すること。